

京都府医師会 勤務医部会
「勤務医・女性医師の労働環境等に関する緊急意識調査」
== 総 括 ==

(1) 回答者のプロフィール

回答者の性別は、男性が 75.1%、女性が 24.9%で、年齢構成では 30～39 歳が 34.6%と一番多かった。所属診療科別では「内科系」が一番多く、次いで「外科系」「小児科」「整形外科」「産婦人科」の順に多かった。既婚者のうち、「配偶者が医師」は全体で 17.2%（男性：12.5%、女性 31.3%）、「配偶者が医師以外」は全体で 52.7%（男性：62.4%、女性：23.5%）であった。

(2) 勤務先の医療施設の状況

医療機関種別では公的機関が 41.8%、医療法人が 28.1%、医育機関が 11.1%、国立が 4.8%、社会保険関係が 5.4%、個人が 1.6%であった。病床規模では「200～499 床」(41.9%) と「500 床以上」(41.6%) がほとんどを占めた。医療圏別では、「京都・乙訓医療圏」が 71.4%と最も多く、次いで、丹後医療圏(7.8%)、中丹医療圏(7.6%)、山城北医療圏(7.2%)、南丹医療圏(4.3%)、山城南医療圏(0.7%) となっている。

(3) 勤務先の医療施設の労働環境

雇用形態では、常勤が 77.5%、非常勤が 10.9%、研修医は 8.1%であった。男性では常勤が 80%超、女性では常勤 65%、非常勤 18%となっている。職位については、医員(23.4%)、医長(19.3%)、部長(18.1%)が多かった。最近 1 ヶ月の時間外労働では、30 時間以内が 34.3%と最も多く、中には 100 時間を超える時間外労働をしている勤務医が 11.8%もある。職直回数については、「4 回以内」が半数の 55.5%、一方で「11 回以上」という回答も 1.2%あった。宿直明けの勤務体制では、「休日となる」という回答は 4%と非常に少なく、70.7%が「連続勤務」と回答している。有給休暇の利用状況では、48.8%が「利用したことがない」と回答している。

(4) 勤務先の医療施設の労働条件

時間外手当については、「支払われている」「支払われていない」が半々であった。また、緊急患者対応手当については、「支給されていない」が 66.5%であった。「ふさわしい労働対価が得られているか」との設問では、「いいえ」「わからない」を合わせると 70%以上あった。特に男性では 49%が「いいえ」と回答している。

(5) 現在の労働環境への問題意識

医師不足については、「そう思う」が 49.3%、「診療科によってはある」が 35.9%で、合わせると 85%と「医師不足」を実感している。医師増員の必要性については、「増えた方がよい」が 51.8%、「診療科によっては必要」が 37.6%であった。約 80%の勤務医が「不安」「不満」「問題点」「悩み」を感じているが、具体的な内容では、男女とも「作成すべき関係書類が多すぎる」が最も多く、「給与」「勉強時間」「施設環境」「過重労働による医療ミス」「患者説明に要する時間」が続いた。男女別で見ると、女性の第 2 位に「家事との両立」が入っていた。

(6) 医師としての将来展望

将来展望について「楽観的」は 36.2%、「悲観的」が 28.9%であった。勤務医を辞めて 2～3 年以内に関業する予定のある勤務医は、ごく一部で、81.7%が「予定はない」と回答している。

(7) 医師会活動について

地区医師会の入会率は「加入」「未加入」がほぼ半数であったが、京都府医師会の入会率は「未加入」が半数を超え、さらに、日本医師会の入会率ではさらに「未加入」率が増加している。京都府医師会勤務医部会の存在について「知っている」が 42.2%、「知らない」が 57.2%と、存在を知らないという回答が半数を超えた。また、活動内容については、90%以上が「知らない」「判らない」と回答した。

(8) 専門性の維持向上への支援状況

学会への参加については、「出張扱い」が 70.7%、「旅費支給のない勤務扱い」が 12.1%であった。また、「年休でいく」との回答も 9.3%あった。「全額自己負担」は 26.2%、「病院からの補助」53.7%であった。専門性向上に必要な学会参加が得られているかとの設問では、「思う」が 30.2%であるのに対し「思わない」「わからない」が 66.9%と 7割近くを占め、「十分な学会参加ができていない」勤務医は多いことがわかる。

(9) 臨床研修制度

指導医手当の支給については「あり」が 3.6%。手当で支給のある指導医はごくわずかである。

(10) 京都府北部地域の医療状況への対応

京都府北部地域の医療状況についての設問では、「北部地域の医療圏全体の地域住民の危機だと感じる」との回答が 252名、「北部地域の医療連携体制を抜本的に考えるときである」が 244名と最も多かった。北部地域への赴任指示を受けた時の対応を尋ねると、「断る」が 270名もあったが、「教育や生活上の問題が整備されれば勤務可能である」との回答も 241名と多く、特に、子どもの教育レベルの問題など、生活環境の整備は重要な要素となる。一方で、「断る」と回答した 270名に「行きたくない理由」を尋ねたところ、「単身赴任が無理」という回答が 118名と最も多く、次いで「家族の反対」が 84名であった。

<女性医師関係>

(11) 女性医師に対する就業支援と持続可能性の確保

「常勤で働くにあたりこれだけは必要」と思われる要素については、「家族の理解と協力」が 73.5%、「上級医や同僚等の理解と子育てサポート体制」が 70.5%、「労働時間の配慮」が 67.5%、「病院のサポート」60.8%、「モチベーション」52.4%の順に多かった。一方で「給与」との回答は 24.7%と少なかった。年齢別でみると、30歳代、40歳代で最も多かったのは「上級医や同僚等の理解と子育てサポート体制」で、50歳代では「家族の理解と協力」であった。非常勤の女性医師に1週間の勤務日数を尋ねたところ、「週2日」「週4日」が最も多かった。また、週5日以上という「常勤並み」の勤務をしている非常勤医師も5名いた。非常勤を選択した理由としては、「出産・育児」が一番多かった。

(12) 現在の職場の子育て環境

職場の産休・育休制度については、51.8%が「ある」と回答。また、職場における保育施設または託児施設の有無については、「なし」が 51.8%と最も多く、「ある」は 23.5%にとどまっており、育児関係においては、まだまだ環境整備が十分ではない。出産、育児における職場における協力、配慮については、「協力的である」との回答は 22.3%であったが「だめである」「何ともいえない」との回答は合わせると 65.1%となり、院内での配慮がまだまだ十分ではない。育児や家事について不満や悩みについての設問では 39.8%が「ある」と回答。

(13) 休職・離職の経験からみた問題点

休職・離職経験がある女性医師にその理由を尋ねたところ、「出産」62.5%が最も多く、次いで「育児」が41.7%となっている。それ以外では、「夫の転勤」が22.9%、「自身の病気療養」が18.8%あった。休職・離職期間については「3～6ヶ月」が最も多かった。復職した時の雇用形態については「常勤」65%、「非常勤」35%であった。復職に際して必要な支援体制について尋ねたところ、「家族の理解と協力」30.7%、「出産、育児支援」30.1%が最も多く、次いで「休暇時の人員確保」21.7%、「フレックス制度の導入」20.5%、「キャリア維持・向上のための再教育」が16.3%の順であった。

＜自由意見＞

「労働対価にふさわしい報酬が得られていない」と回答した方に自由意見を求めたところ、「報酬に関する問題」を上げる声が多く、特に、①各種手当の支払い②診療科間の報酬格差③技術に対する評価④指導医としての手当⑤退職金について一などの意見があった。また、開業医との収入格差についての意見があった。「開業医は楽で収入も多い」といった認識の勤務医は多い。その他、①設備面での問題②仕事環境の問題③プライベートに関する問題も上げられた。

「外勤」についての設問でも「必要な理由」を求めたところ、「収入のため」「医師不足でやむを得ず」といった意見が目立ったが、「地域医療への貢献」や「技術習得や交流のため」といった前向きな意見もあった。

現在の労働環境への問題意識として、「不安」「不満」「悩み」「問題点」のいずれかが「ある」と回答した方に自由意見を求めた。特に、「患者対応」では患者クレーム・電話対応が続く時のストレスを感じている」といった不満があり、患者対応の難しさが勤務医を疲弊させる要因のひとつであることがわかる。その他、「医師不足、看護師不足」「臨床・研究・指導」「プライベート」に関する意見が多かった。特に「臨床研究に対するインセンティブが低い」「自分のスキルアップがいまひとつ」といった臨床・研究への問題点やプライベートでは、「身分が不安定で、10年(5年)後のことがわからない」「自身の健康問題」を上げる意見もあった。その他では、「諸外国と比較して、医療に対する評価の低さ」を指摘する声もあった。

今後の開業予定で「ある」と回答した方の自由意見としては、「親子継承のため」といったやむを得ない事情以外に、「勤務医の厳しい環境から逃れたい」や「開業医のほうが楽で収入がいい」といった意見も一部で見られた。一方で地域医療への貢献や「やりがい」を上げる意見や「年齢からくる体力面での不安」や「家族や自身の健康からくる生活面での不安」を訴える意見も多く見受けられた。

京都府医師会に期待していること、ならびに医師会費について意見を求めたところ、多くの意見が寄せられたが、「医師会活動への批判的な意見」がかなり多くを占める結果であった。特に、「医師会への期待」については「期待しない」「開業医のための利益団体」「入会しても勤務医にとっての恩恵は一切ない」との厳しい回答が多数。さらに、「勤務医独自の会を設立すべき」との意見もあった。また、回答者には非会員も多く、「医師会の存在を知らない」「勤務医は医師会に入会できないと思っていた」という回答があった。また、「医師会入会のメリットを広報してほしい」といった声も聞かれ、勤務医への広報不足が今後の課題である。一方で「医師会への要望」として、「勤務医の労働環境改善に向けた活動を期待する」「マスコミへのPRを強化すべき」「厚労省への積極的な働きかけ」を求める意見もあった。また、

「勤務医の団結」「あるいは開業医との連携」を求める意見や「学術団体としての医師会の役割に期待する」声もあった。その他、「開業医の休日・救急対応の必要性」への意見も出された。については、日本医師会、京都府医師会ともに、「高すぎる」「会費に見合うメリットがない」という意見が多かったが、政党への献金については特に批判的な意見も多数見受けられた。また、会費負担については、「病院負担」の必要性についての意見があり、「会費の使われ方」についての意見もあった。

育児に関する問題では、子育てについて、「保育園への入園がむづかしい」「配偶者や親の協力がなければできない」といった意見が多く、「このままでは妊娠、出産はできない」との声もあった。また、育児についても「子供が病気のときが大変」「子供といる時間が非常に少なく心配」といった問題点が指摘された。また、「介護の問題」を指摘する意見、育児・介護による疲れ、ストレスから「自身の健康を危惧」する意見もあり。

また、女性医師の就労支援制度や労働環境について一番問題と考えていることについては、「勤務医としてやっていきたいが「育児」「介護」の問題があると現実には難しい」という意見が多い。特に、「家族の協力が必要」「同僚、上司の理解」「病児保育を含む院内保育所が必ず必要」という意見があったが、それ以上に、「複数医師による主治医制」「復職時のフレキシブルな勤務体系」「ワークシェアリング」「産休時・育休時の第替医師の確保」「短時間労働」などの導入に対する要望も多数挙げられた。また「施設を新しくしているにも拘わらず、施設環境(更衣室・ロッカー・シャワーなど)が全く整備されていない。女性医師に配慮する気が無い様を感じる」「激務なのに当直者以外に休む部屋が無く、仕方無く医局に寝ているが迷惑がられている。各病院に休憩室を確保する事を義務化して欲しい」といった施設整備の面での指摘もあった。その他、独身女性医師からは、「同様に働いても女性医師と男性医師での評価に差がある」「働いても男性医師と同等の待遇は無く、結婚するしかないという気持ちにさせられます」「男女の体力差が全く考慮されず、当直勤務についても男性と同等の勤務をこなして当然とされる」といった不満があった。また、「部長クラスの人が女医の就労につき自ら問題点を考え体制を改善していくことが必要だと思う」といった意見や「女性医師が「出産・子育て・研究・臨床」を全て得られるのであれば、それに対し感謝の念を持つべきである。医師という職業を選んだからには「全てを当たり前で得られる」はずはない。何かを犠牲にするか、並々ならぬ努力が必要だと思います」という意見もあった。